

学校施設劣化状況調査の結果について

1 調査概要

(1) 調査目的：
学校施設の老朽化が進行する中、維持管理等に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図りつつ、施設の機能・性能を確保していく必要がある。長寿命化改修等による計画的な整備を進めるため、学校施設長寿命化計画を策定するにあたり、各施設の劣化状況を把握する調査を行ったもの。

(2) 調査内容：
小学校 26 校、中学校 14 校、高等学校 1 校について、文部科学省作成「学校施設の長寿命化計画作成に係る手引き」及び「学校施設の長寿命化計画作成に係る解説書」に基づき、国土交通省監修「国の機関の建築物の点検・確認ガイドライン」等を参考とした現地調査により部位ごとの劣化状況の確認を行い、A～Dの評価判定を行った。

調査部位	調査内容
躯体	不同沈下の有無 鉄筋コンクリート造の鉄筋爆裂・露筋クラック、鉄骨の錆・穴あき コンクリート強度・中性化調査
屋根・屋上	仕様確認 防水又は板金の劣化、ルーフトレン・笠木の劣化
外壁	仕様・劣化状況確認 モルタル・タイルの浮き
外部建具	サッシ・アルミドア等の仕様・劣化状況確認
内部仕上	天井・壁の漏水の有無 床・壁・天井・開口部仕様確認
強電設備	受変電設備・照明器具の仕様・容量劣化状況
弱電設備	放送設備・自火報設備等の仕様と劣化状況確認
衛生設備	給水方式確認 主要機器の仕様と劣化状況確認、給湯機器の仕様と劣化状況確認
暖房設備	暖房方式確認 主要機器の仕様と劣化状況確認

評価	A	特に問題なし
	B	一部に劣化が見られるが、現時点では改修の必要なし
	C	劣化が進んでおり、改修する必要がある
	D	劣化が著しく、早急に改修する必要がある

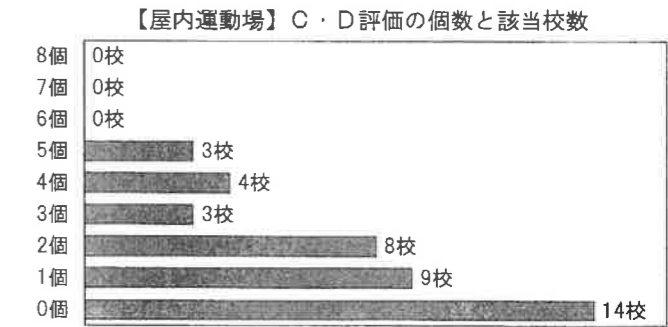
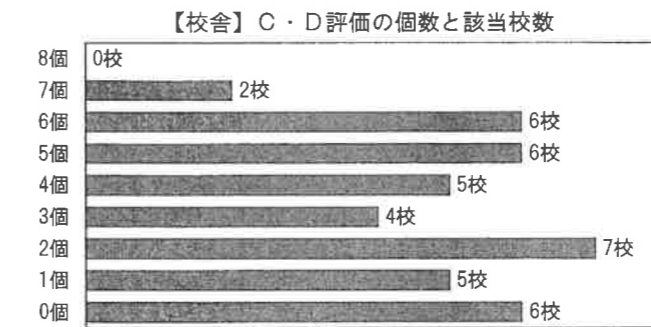
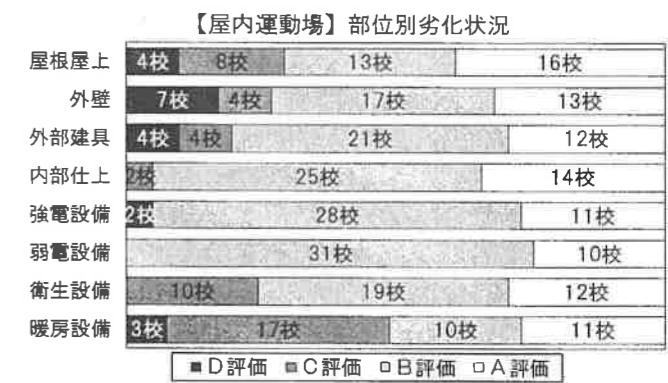
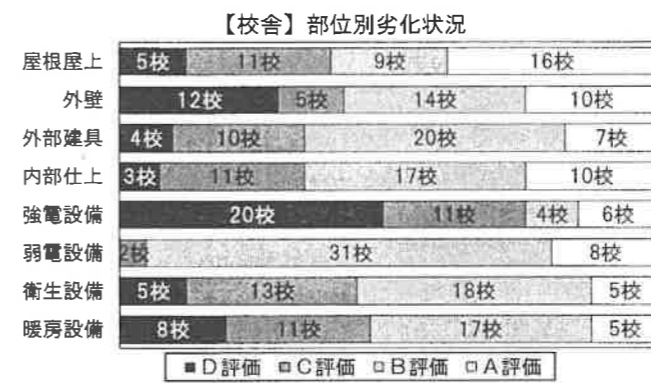
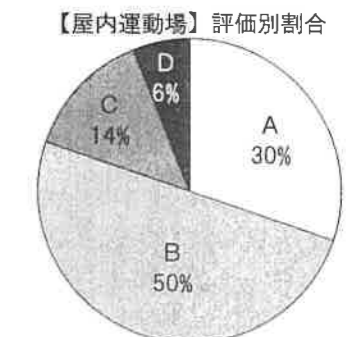
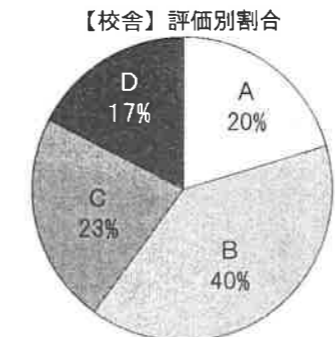
(3) 調査期間：平成 29 年 6 月 19 日～平成 30 年 2 月 28 日

2 調査結果

- (1) 校舎：
- 躯体については、耐力度に影響のない程度のクラックや部分的な鉄筋の露出等は見られたが、沈下による校舎の傾きはなく、文部科学省が定める長寿命化に対応可能なコンクリート強度（おおむね 13.5N/mm²以上）が確保されている。
 - 多くの学校施設で劣化が進んでおり、約 8 割の学校で C 評価又は D 評価の部位があり、全体で見ると C 評価及び D 評価が占める割合は約 4 割となった。
 - 特に、強電設備については、約 7 割となる 31 校が C 評価又は D 評価であり、暖房設備については約 5 割となる 19 校、外壁については約 4 割となる 17 校が C 評価又は D 評価となっている。

- 8 つの評価部位のうち、C 評価又は D 評価と判定された部位が 7 個あった学校が 2 校、6 個あった学校が 6 校あり、校舎全体で劣化が進行している学校があった

- (2) 屋内運動場：
- 校舎に比して C 評価及び D 評価が少ないものの、約 6 割の学校で C 評価又は D 評価の部位があり、全体で見ると C 評価及び D 評価が占める割合は約 2 割となった。
 - 特に、暖房設備については、約 5 割となる 20 校、屋根・屋上については約 3 割となる 12 校が C 評価又は D 評価となっている。



3 施設整備費用

- (1) 概算事業費：
- 校舎及び屋内運動場の C 評価及び D 評価の部位を全て改修した場合の総事業費は 120 億円超と見込まれており、その内訳は校舎が約 108 億円、屋内運動場が約 12 億円となっている。

